

事業報告

1、団体名

認定 NPO 法人 地球市民の会

2、事業の名称

世界を視野に、地域で輝く高校生育成プログラム
～スリランカと日本の高校生の学びと交流～

※愛称：カタランカ Cross Asia ～スリランカ高校生招へいプログラム～

3、事業の実施経過

〈対海外〉

- 4 月 スリランカのカウンターパート（Nishantha 氏）へ事業概要送付
日程の調整・確定、招聘者の検討
- 5 月 招聘者の確定、来日準備開始、招聘者のプロフィール作成
- 6 月 第 1 回目オリエンテーション
- 7 月 第 2 回目オリエンテーション

〈対海外〉

- 4 月 実施概要決定、地球市民の会理事会で実施概要に関する審議
プログラムへの協力依頼
- 5 月 プログラム内容の決定、実行委員公募、第 1 回実行委員会開催、ホストファミリー募集開始
- 6 月 諸手配の開始、各プログラムの打合せ、第 2・3 回実行委員会開催、
- 7 月 第 4 回実行委員会開催、プログラム参加者募集開始、名義後援依頼、実行委員会出し物ソーラン節練習（毎週）、ホストファミリー顔合わせ会、しおり作成（実行委員、スリランカ人、日本人参加者向け）

4、実施内容

概要： スリランカの高校生を佐賀県に招聘し、学びと交流のプログラムを実施した。人と人との触れ合い、学び合いを通して「国際的な広い視野」や「地域を大切に作る心」をもった若者を育み、日本とスリランカ、そして世界への友好の輪を広げていくことを目的とする。

また、広く一般市民の方々が参画できる場をつくることにより、佐賀に於ける国際交流や地域づくり活動の活性化、地域全体の意識向上に繋げていきたい。

招聘者： 高校生 5 名、引率 1 名

チャンディマ先生 KIRINALIYA GAMAGE NILANI CHANDIMA （33 歳）
ワスンダラー VIDARSHI VASUNDARA KALANSURIYA （17 歳）
ウシャーラ USHARA MADUSHANI （17 歳）
アヌルディッカ ANURUDDIKA GEETHANI SANJEEWANI （17 歳）
ジャヤダー JAYADA YASASVI GALLAGE （15 歳）
マドウシャニ MADUSHANI CHATURIKA KULATUNGA （16 歳）

実行委員：大学生 9名 / 社会人 5名 / 地球市民の会 9名

日程：2012年8月2日(木)～8月10日(金)

スケジュール：

日にち	曜日	内容	宿泊
8月2日	木曜日	福岡空港へ到着	サガシティホテル
8月3日	金曜日	●秀島佐賀市長表敬訪問 ●佐賀市内観光 (佐賀大学、NHK 佐賀放送局、佐賀城本丸歴史館) ●ウェルカムパーティー (佐賀市立循誘公民館)	ホームステイ
8月4日	土曜日	●実行委員プログラム 「スリランカの学生と電車の旅に行こう」 (JR を利用、佐賀県立宇宙科学館、武雄神社、大楠見学)	ホームステイ
8月5日	日曜日	●終日：ホストファミリーと家庭内交流	ホームステイ
8月6日	月曜日	●佐賀県立佐賀北高校訪問、交流プログラム ●日本文化体験（井内お能舞台見学、体験） ●七賢人の里 おへそ保育園訪問、交流プログラム ●アロマ打ち水体験（※新聞記事有り） ●日本文化体験（浴衣を着よう！）	古賀空手道場
8月7日	火曜日	●伊万里川内野 農家民泊（1泊2日間）（※新聞記事有り）	農家ステイ
8月8日	水曜日	●英語でワークショップ 「アジアの友好を築くため、私たちに求められることは？」	古賀空手道場
8月9日	木曜日	●『佐賀-スリランカフェスティバル』（※新聞記事有り） (ほほえみ館) ●さよならパーティー (古賀空手道場)	古賀空手道場
8月10日	金曜日	福岡空港から帰国	

主な活動詳細：

8月3日（金）

◆佐賀市内観光

わたし達の街・佐賀を知ってもらおうと、佐賀大学・NHK 佐賀放送局・佐賀城本丸歴史館の3ヵ所を訪れた。

佐賀大学では、スリランカ留学生との交流を図り、留学生による日本の生活レクチャー、自身の日本での暮らし、どのような研究をしているか等、シンハラ語で会話が弾んだ。来日した高校生たちは、今後の進路を選択する時期にあり、外国で活躍する留学生との語り合いは、将来に対する希望を広く持つ機会となった。



（スリランカ留学生との交流 in 佐賀大学）



（自転車で佐賀の街を移動中！）

NHK 佐賀放送局では、局内の見学、東日本大震災に関するビデオ上映をして頂いた。2004 年、来日した高校生たちが暮らす街・ゴール市は、スマトラ沖地震に伴う津波を経験しており、「共通の津波という経験。今回の滞在中、どのように人々が復興に向かっていったか話したい」と話した。

佐賀城本丸歴史館では、ボランティアの案内を受けながら、佐賀で積み上げられてきた歴史、七賢人の偉業や佐賀城の構造などに興味津々に聞き入るスリランカの高校生たちの姿があった。



（NHK 佐賀放送局スタジオ見学）



（模型を見て説明を受けるスリランカの高校生たち）

移動は、佐賀大学のサークル「チャリさがさいせい」（不法投棄自転車回収・修理し、貸し出しを行っている）の協力を頂き、無償で自転車のレンタルを受けた。

佐賀市内観光を担当した佐賀大学学生は、「訪問先を考える時に、改めて自分の街には何があるのか、何を知ってもらいたいかなど、考える機会になった。自分たちの街について、外国の人に伝えることができ、そして関心を持ってくれ、とても嬉しかった」と感想を話してくれた。

8月3日（金）～6日（月）

◆ホームステイ（ホームステイ受入家庭：佐賀市4家庭、鳥栖市1家庭）

佐賀県内の家庭へ、3泊4日間、滞在し普段着の交流を図った。どの家庭でも、外国からのお客さまとしてではなく、家族の一員として迎え入れてくれた。言葉でのコミュニケーションが思いとおりにいかないなか、お互いに、一生懸命伝えようと、心でのコミュニケーションを図った。



（すっかり姉妹のようになりました）



（お友達もカタリ、国際交流の輪が広がった）

長崎平和公園を訪れており、「スリランカ人」「日本人」という国境を超えて、共に平和への想いを馳せる大切な時間になった。ホストファミリーも平和公園を初めて訪れており、「スリランカの高校生が平和公園を訪れる機会を与えてくれ、改めて平和への想いを持つことができた」と話した。（ホストファミリーの方より）

地域の清掃作業に参加したスリランカの高校生。地域を大切に思い、協力しあう姿、共に地域を守っていこうという姿に、感激したと話してくれた。（スリランカの高校生より）

保育園を経営するご家族にホームステイした高校生。保育園で園児との交流をした。園児たちがスリランカの高校生来園に向けて、ウェルカムボード作成やお手紙書きに取り組んでおり、ホストファミリーの方が「小さい時から、外国の人を含め色々な人と出会うことは、とても大切なこと。園の子ども達にとっても、良い経験になった。」と感想を寄せてくれた。（ホストファミリーの方より）

8月4日（土）

◆実行委員プログラム（参加者：スリランカ人6名、高校生3名、大学生3名、一般5名、地球市民の会2名）

「佐賀の良さを伝えたい」「スリランカのことを振り返る機会にもして欲しい」「わくわくするような時間を共有して、心の交流を図りたい」と実行委員主催のプログラムを実施した。JRを利用し、佐賀市から温泉で有名な武雄市を訪れ、佐賀県立宇宙科学館と大楠名所を巡った。

高校生や大学生の一般からの参加もあり、道中では、学校生活の話、国の歌を紹介しあう等、友情や相互理解を深める時間となった。



（電車で武雄へ移動中）



（歌いながら、武雄を散策中）

佐賀県立宇宙科学館では、天体に関する掲示物の見学、無重力体験や宇宙飛行士の訓練体験などを行った。来日したスリランカの高校生のなかには、天体サークルに所属する者がおり、「このような科学館はスリランカには無い」と、目をキラキラさせながら見ていた。



(宇宙飛行士の訓練体験)



(武雄神社 大楠の前で記念撮影)

武雄にある三大大楠のうち2つ、武雄神社の武雄大楠と塚崎大楠を見学した。自然の偉大さに感激をしながら、「スリランカにも何千年という大木があり、私たち仏教徒にとって神聖な場所になっている」とスリランカのことを知る機会にもなった。

8月6日(月)

◆佐賀県立佐賀北高等学校訪問（受入協力：学校長、教頭、国際交流担当教師2名、生徒会役員2名、書道部部員25名）

日本文化体験プログラムを、生徒会役員と書道部員を中心にセッティングしてくれた。佐賀北高等学校の書道部は、全国一の成績を納めている書道の名門校である。



(佐賀北高校学校長の挨拶)



(スリランカの高校生たちの挨拶)



(書道部員が、合作で「親愛」を披露してくれた)



(手本を見ながら、「友」「夢」「空」の文字を書いた)



(スリランカと日本の高校生の輪が広がりました)

最初は、お互いに緊張した様子だったが、「書道」という芸術を利用して、高校生同士がコミュニケーションをとり、友達になる時間となった。スリランカの高校生たちは、同世代の高校生たちが見せてくれた技に「魅力や楽しさを伝えることができるものを持っており、素晴らしいと思った」という感想を持ったようだ。日本の高校生たちにとっても、英語を使って「書道」を伝える努力、楽しく体験してもらえよう準備することを通して、自分達が持つ文化を発信する機会になり、自信に繋がったようだ。

8月7日（火）～8日（水）

◆伊万里川内野農家民泊

佐賀大学農学部准教授の五十嵐教授・大学生の協力を頂き、2日間農家民泊を体験した。伊万里川内野は、過疎化が進んできている地域で「黒米」を使った地域おこしを行っている地域だ。川内野の幸松伝司さんが中心となり、老人会や婦人会、子ども達との交流、棚田広がる緑豊かな集落で以下のようなプログラムを行った。

- ・竹細工、そうめん流し…老人会の方々の協力を頂き、真竹を使った器とマイ箸づくりを行った。ジェスチャーでコミュニケーションを図りながら、楽しい時間を過ごした。



(老人会の方々と協力して、竹を切る高校生)



(初めてのそうめん流し)

- ・フィールドトリップ…観光案内所のボランティアの方々や地域の人々の協力を頂き、山に残る神社やお墓を巡る川内野史跡めぐりやスケッチを行った。



(川内野の歴史の話を聞く)



(お気に入りの場所をスケッチ)

- ・野菜の収穫体験…地域の農家の方々を訪問し、野菜をお裾分けして頂いた。畑に綺麗に実った野菜を収穫させて頂き、自然の恵みに感謝した。
- ・料理体験…黒米加工グループの女性メンバーの方々と、地域の特産物である黒米を使い、巻き寿司といなり寿司づくりを行った。調理しながら黒米加工の研究の話もあり、地域を活性化しようと努力を重ねている姿に、「日本人は一生懸命働く」という感想を話してくれた。



(トマトの収穫ににっこり)



(地域の女性と黒米の巻き寿司体験)

- ・地域の人々との交流会…集落の子どもからお年寄りまで集まってくださり、交流会が開催された。川内野に受け継がれている浮立の演奏・体験、スリランカの農民の生活を描いた舞踊を披露した。また、川内野で1日滞在した感想を発表するなかで、「川内野の良さをたくさん発見してくれ、とても嬉しかった」と地域の方々から感想が発表された。



(川内野浮立の演奏)



(スリランカの高校生による出し物)

- ・農家ステイ…3家庭に分かれて、宿泊させて頂いた。土間や低い天井のつくりの家に、
- ・お寺掃除…地域の方々と一緒にお寺の掃除を行った。「今回のように、外国から来られた方々が、地域にとって大切なお寺を掃除して頂いたことが嬉しい。」と感想を話してくれた。



(みんなでお寺掃除)



(握手でお別れ)



(川内野の皆さんと集合写真)

今回、プログラムの終わりに、スリランカの高校生受入に関して、「初めての外国からの受入」ということに不安を抱えていたと話してくれた。「文化も習慣も違うスリランカからの高校生たちに川内野の良さを見てもらい、共に体験活動をするなかで、地域の人々が元気を頂いたようだ。来年も来て欲しいとみんな話している。」と地域の方々からの感想を寄せて頂いた。

8月8日(水)

◆英語でワークショップ(参加者:スリランカ人6名、大学生9名、高校生3名、一般5名、地球市民の会4名)

「アジアの友好を築くために、私たちに求められていること」をテーマに、日本とスリランカの若者同士の語り合いを行った。アイスブレイクとして、キーワードを発表し合う自己紹介を行った後、テーマにそって日本とスリランカ各国ごとにプレゼンテーションを行った。



(英語を使って真剣に話す高校生たち)



(スリランカの高校生によるプレゼンテーション)

日本側は、公募で集まった佐賀大学生が発表。具体例を提示しながら、「自分自身を知り、発信できる力を養っていくことの大切さ」「インターネット等のツールをうまく活用して、世界との繋がりをつくっていくことの重要性」等を述べた。スリランカ側は、「発展した科学技術を、広く共有していくことが必要だ」と発表された。

プレゼンテーション後のディスカッションでは、日本とスリランカの2国間の実際の関係性、どのような関係性を大切にしていけばよいか議論を深めた。最初は、「スリランカから輸出する紅茶やコイル」や「日本のODAによる橋建設」等「国」と「国」の焦点が充てられていたが、スリランカの高校生たちから「サンガミッタ女子校と地球市民の会」という意見も出された。「今回、人と人が出会っていくことの大切さ、文化や習慣という背景が異なっても、意見交換し相互理解を深めることの大切さを学んだ。そのようにして「友好」が深まっていくのだと感じた」という参加者の感想が出された。

ワークショップ終了後は、交流会を持ち、「幸せを感じる瞬間」や「津波被害後、どのように復興支援をしてきたか」を話題に語り合う時間になった。



(アジアの友好のために、若者の輪が広がりました)

8月9日(木)

◆「佐賀ースリランカフェスティバル」(参加者：中学生以下5名、大学生7名、一般12名、地球市民の会5名)

スリランカと日本の文化交流として、フェスティバルを実施した。「食」をキーワードに、お互いの国の文化に触れることにより、参加者が「世界への関心」「自分自身の文化への関心」を持って頂ける機会となった。

- ・スリランカカレーづくり…スリランカから持ってこられたスパイス各種。スリランカの高校生たちが先生となり、何種ものスパイスを調合して3種類のカレーをつくった。右手を使ってスリランカスタイルの食事を体験した。
- ・落雁づくり…落雁づくりを行っているグループから協力を頂き、落雁づくりを行った。スリランカの高校生にとってだけでなく、日本の参加者にとっても初めての経験で、日本文化を知る機会となった。
- ・お茶文化交流…日本の緑茶とスリランカの紅茶について、各国からプレゼンテーションを行った。その後、緑茶と紅茶を入れて飲み比べも行った。
- ・文化交流(スリランカ伝統舞踊披露)



(スリランカのカレーづくり)



(綺麗に落雁ができました)



(手でカレーを食べています)



(お面をかぶって、民族舞踊を披露)



フェスティバルは、初めて国際交流のプログラムに参加された方も多く、「最初はどきどきしたけど、スリランカの文化に触れることができ、とても楽しかった」「もっと色々な外国のことを知りたいと感じた」等の感想が寄せられた。

ウエルカムパーティー及びさよならパーティー

8月3日にウエルカムパーティー、8月9日にさよならパーティーを実施した。実行委員、ホストファミリー、当会会員を中心に、各回40名程が集い、執り行われた。

ウエルカムパーティーでは、自己紹介から始まり、ホストファミリーとの対面、国を紹介するプレゼンテーション、レクレーション等が行われた。さよならパーティーでは、スリランカの高校生や実行委員による出し物、感想交流が行われた。



(ホストファミリーと対面)



(みんなの笑顔で出迎え。ウエルカムパーティー)



(スリランカに関して発表)



(実行委員出し物 ソーラン節を披露)



(川内野で描いた絵をホストファミリーに贈呈)



(最後の夜 さよならパーティー)

協力者・団体：

佐賀市国際交流室、佐賀大学留学生、チャリさがさいせい、NHK佐賀放送局、佐賀城本丸歴史館、佐賀市立循誘公民館、佐賀県立宇宙科学館、佐賀県立佐賀北高等学校、井内お能舞台、七賢人の里 おへそ保育園、寄ん処、伊万里川内野集落の皆さま、ほほえみ館、古賀空手道場、古賀英語道場、夢の学校をつくる会、ホストファミリーの皆さま、地球市民の会会員、カタランカ実行委員会

後援：

佐賀県、佐賀県国際交流協会、佐賀市、佐賀市国際交流協会

5、成果の公表（予定も含む）

- ・ 佐賀新聞社及び西日本新聞社に記事掲載（別添参照）
- ・ NHK佐賀「ただいま佐賀」で、伊万里川内野での交流の様子が放送された。
- ・ スリランカ人高校生による、現地の学校での報告会開催予定。
- ・ 地球市民の会会報「ネットワークテラ」で成果報告予定。（当会会員ら約650名へ配布）
- ・ 地球市民の会ホームページ上で成果報告を掲載準備中。

6、事業の成果

当事業は、上述したとおり多方面からの市民参画やご協力を頂く形での実施ができ、事業の目的「国際的な広い視野や地域を大切にする心をもつ人づくり」は、下記のように広く達成できた。

- ・ スリランカの高校生たちは、初めての海外訪問での異文化体験や日本人との触れ合いに、将来への希望や意識を高める機会となった。帰国後、学校での報告会を予定しており、スリランカ国内での波及効果も期待される。
- ・ 触れ合いや共通の体験により、文化や習慣が違っても、「お互いに認め合うことの大切さ」や「地球に暮らす仲間であること」を実感する機会となった。
- ・ 国や文化を伝える機会をもったことで、「自分の暮らす町について見つめ直し、良さを再発見する機会」となったと言える。
- ・ 実行委員形式で行ったことにより、国際交流プログラムを企画・運営する魅力や楽しさを感じる機会となった。日本の20代～30代の若者同士の繋がりをつくることができ、今後、佐賀に於いて「グローバルな視点」と「ローカルな視点」を持ち合わせた活動の高まりが期待できる。
- ・ 述べ300名程の参加があり、スリランカ人と日本人間の交流は勿論、日本人同士の出会いの場となり、新しい地域の繋がりをつくっていくことができた。また、当会会員に留まらず広く市民の参画があり、海外への関心低下が叫ばれる日本で、関心向上のきっかけづくりとして貢献できた。

(その他のプログラム)



(秀島佐賀市長表敬訪問 8月3日)



(井内能舞台訪問・体験)



(打ち水体験 佐賀市わいわいコンテナ)



(七賢人の里 おへそ保育園訪問・交流)



(実行委員会 7月 スリランカカレーづくり交流)